

群 教 七	G01 - 03
	平29.265集
	国語 - 中

叙述に即して文章を読み、 要旨を捉えることができる生徒の育成 ——段落の役割やつながりを捉えて読む指導の工夫を通して——

特別研修員 都丸 佑磨

I 研究テーマ設定の理由

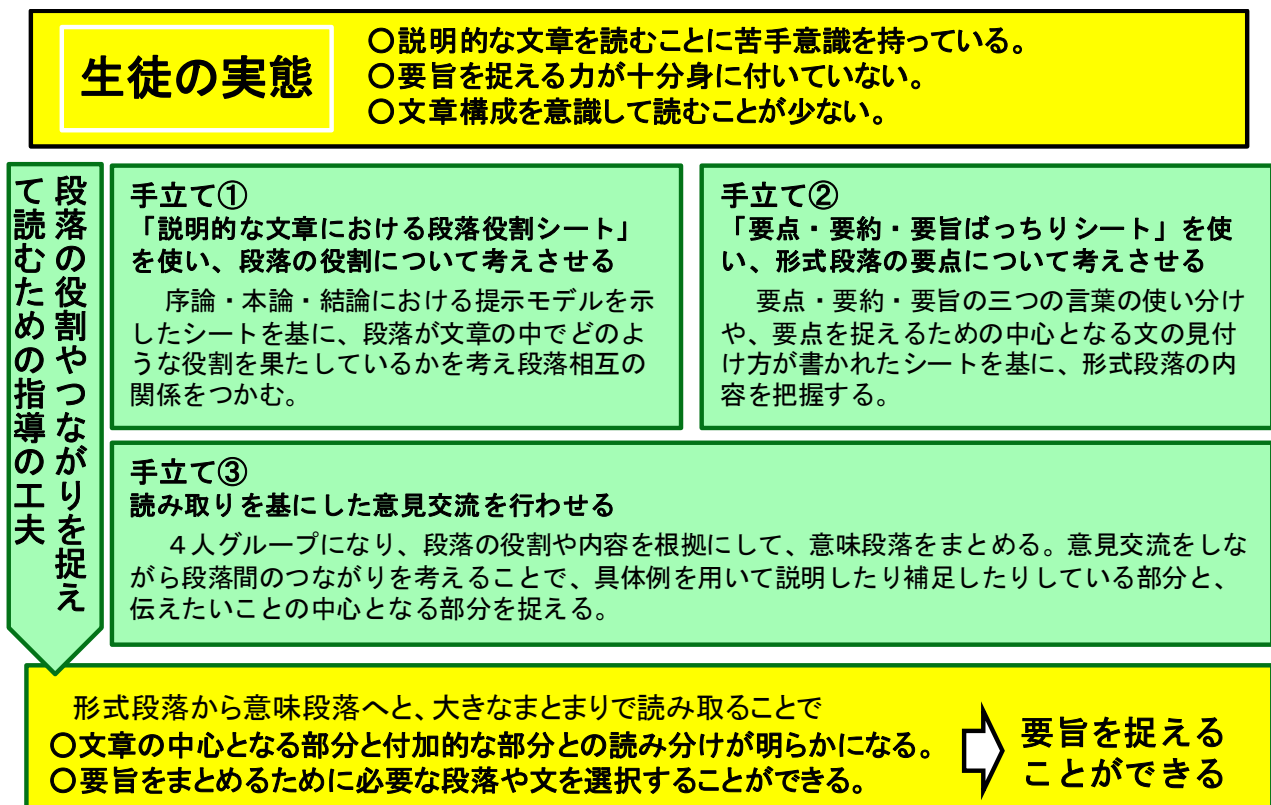
はばたく群馬の指導プランには、群馬県の国語の課題として「目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること」が挙げられている。また、平成28年度全国学力・学習状況調査の群馬県の結果では「文章と図表などの関連を踏まえ、テキスト全体の構成を捉える問題の正答率が低い」ことが、中学校国語の課題として示されている。この課題を踏まえ、「それぞれの資料について、着目すべき言葉や数字等を基に構成や大意を捉えさせる」「それぞれの資料を比較・関連付け、全体を通して書き手の伝えたいことを捉えさせる」ことに指導の重点が置かれている。所属校の生徒においても、説明的な文章の読み取りの際、文章全体の構成を踏まえて書き手の伝えたいことを捉える力が不十分であった。

説明的な文章は、的確な語句、表現及び表記などにより、明確な構成の下に筆者の論が展開されている。しかしながら、自分自身や所属校の指導においては、文章の内容を理解することに焦点を当てがちで、文章を順番に区切って扱うことも多く、文章全体の構成を意図的に扱うことが少なかった。

そこで、まずは全体の文章を確認し、内容を要約しながら各段落の役割について考えさせる。次に、段落間のつながりを図や記号を用いて表す活動を設定することで、生徒は文章の中心的部分と付加的部分とをはっきりと読み分け、文章を要約したり、要旨を捉えたりできるようになると考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨を捉えることができるようにするためには、形式段落の内容と、文章中での役割を読み取らせなければならないと考えた。併せて、大きなまとまりである意味段落を明らかにすることで、内容の大体が整理され、生徒が筆者の伝えたいことに迫れるのではないかと考えた。そこで、「段落の役割やつながりを捉えて読む指導の工夫」を授業改善に向けた手立てとして本実践を行った。

手立て1 「説明的な文章における段落役割シート」を使い、段落の役割について考えさせる。

手立て2 「要点・要約・要旨ばっちりシート」を使い、形式段落の要点について考えさせる。

手立て3 読み取りを基にした意見交流を行わせる。

手立て1は、段落相互の関係を考えさせるために、段落がどのような役割を果たしているか、共通の視点を持って考えながら文章を読ませる活動である。「説明的な文章における段落役割シート」には、序論・本論・結論における段落の役割の提示モデルが示してある。生徒には、シートを参考に、形式段落の役割をどのように示せばよいのか考えさせ、自分の考えをまとめさせる。

手立て2は、形式段落の要点を押さえることで、意味段落のまとまりを見付ける活動である。「要点・要約・要旨ばっちりシート」には、「要点・要約・要旨」の三つの言葉の使い分けや、要点を捉えるための中心となる文の見付け方、要約・要旨のまとめ方を示している。生徒には、シートを参考に、形式段落のどの部分に視点を当てて読むと要点を捉えられるのかを考えさせながら、自分の考えをまとめさせる。

手立て3は、考えた段落の役割や形式段落の要点を基に、文章の構成について考える活動である。この活動は、4人グループで行うようにする。文章構成について互いに交流することにより、互いの感じ方や考え方の違いに気付いたり、自分の考えを見直して思考を深めたりすることができる。また、文章の構成をグループや全体で共有しやすいように、形式段落の番号の書かれた付箋紙を使って、段落間のつながりやまとまりを線で示しながら視覚的に明らかにする。

このように、段落の役割やつながりを捉えて読む指導を工夫することで、生徒は、意味のまとまりに気付き、中心的な部分に着目して要旨をまとめることができると考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 説明文の教材について、段落の役割や形式段落の要点を捉えてから意味段落を考える活動を行うという授業の流れによって、「文章の内容が分かりやすい」と感じた生徒が多かった。読みの視点を持ったことによってポイントを絞って読み進めることが、内容の要約や要旨の捉えに役立っていた。
- 段落の役割や形式段落の要点を捉える活動を行ったことで、具体的な根拠を示しながら意見交流ができた。また、自分たちの考えを視覚的に明らかにすることでグループ内の交流が活発になり、文章構成と中心的な部分の内容を根拠を持って検討することができ、要旨の捉えに必要な読み取りにつながった。

2 課題

- 要点や要約文を書き出す時間の個人差が大きかった。「書くこと」の指導とも関連させながら、目的に沿った読み方について今後も計画的に指導を重ねていく必要がある。

実践例

- 1 単元名 「論点を捉えて」
 教材名 「幻の魚は生きていた」光村図書（第1学年・2学期）

2 本単元について

本教材は、「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」「シカの落ち穂拾い」に続く、1年生最後の説明的な文章である。これまでの学習の中で、小学校で学習してきた文章構成の基本である「はじめ・中・おわり（序論・本論・結論）」や、論の述べ方のモデル「双括法・頭括法・尾括法」について触れている。また、それぞれの段落が文章の中でどのように使い分けられているのか、段落の役割に着目して読み、段落間のつながりや意味のまとまりについて考えていく学習活動を進めた。「シカの落ち穂拾い」では、示されている事実と筆者の考えとを読み分けていく学習を進め、小見出しや図表の効果について考える活動を行った。

「幻の魚は生きていた」は、秋田県田沢湖にかつて生息していたクニマスが発見されたニュースに始まり、クニマスが田沢湖から消滅した理由、山梨県西湖で発見された経緯、それに関わる人々の思いをつづりながら、人間の生活と生き物や環境との関係について筆者が主張を述べる文章である。それぞれの段落の役割が明確であるだけでなく、具体的な表現と抽象的な表現が効果的に用いられており、分かりやすく構成されている。また、写真や表を適切に用いて、読者が内容を理解しやすいように工夫されている。第1学年における説明的な文章の学習のまとめに適した教材である。

目標	段落間の関係を考えながら文章の構成を捉え、中心となる文に着目して、要旨を捉える。	
評価 規 準	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割を考えながら、段落間の関係を捉えようとしている。 段落の役割を意識しながら、中心となる文を見付けようとしている。 筆者の考えを理解し、自分のものの見方や考え方を広げようとしている。
	読む能力	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割を押さえ、文章の構成や説明の仕方を捉えている。 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けている。 筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめている。
	言語についての知識・理解・技能	<ul style="list-style-type: none"> 説明的な文章を読み進める上で、必要な語句について調べ、意味を理解している。
過程	時間	主な学習活動
課題把握	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 本文を通読し、初発の感想を書く。
課題 追 究	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 段落の役割や要点について考える。 文章全体を三つに分けたとき、序論・本論・結論はどの部分になるか考える。
	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 本論のまとまりを考え、構成図に表す。
	第4時	<ul style="list-style-type: none"> 序論・本論・結論の中心となる文を、段落の役割を意識しながら探し、要旨を200字にまとめる。
まとめ	第5時	<ul style="list-style-type: none"> 筆者のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめる。

3 本時及び具体化した手立てについて

本単元は全5時間計画であり、本時は第3時に当たる。生徒は要旨を200字にまとめることを目指して学習を進めていく。それに向けて、次のように手立てを具体化した。

手立て1

「説明的文章における段落役割シート」を使い、段落の役割について考えさせる。

- 段落の役割を考えながら、全17段落を序論・本論・結論に分けさせる。
- 段落がどのような働きをしているか考え、「説明的文章における段落役割シート」を参考にしながら、段落の役割をワークシートに書き込ませる。

手立て2

「要点・要約・要旨ばっちりシート」を使い、形式段落の要点について考えさせる。

- ・「要点・要約・要旨ばっちりシート」を参考にしながら、繰り返し出てくる語や重要な内容が続く接続語に線を引き、中心となる文を探し、要点を捉えさせ、ワークシートに書き込ませる。

手立て3

読み取りを基にした意見交流を行わせる。

- ・段落の役割や要点を書き込んだワークシートを基に、4人グループで文章構成について考えさせる。
- ・形式段落の番号が書かれた付箋紙を用意し、付箋紙を移動させながら文章構成について考えられるような場を設定する。
- ・ホワイトボードを用意し、囲み線や記号を使って、生徒の考えを視覚的に共有できるようにする。

4 授業の実際

ここでは手立て2・3を具体化した、段落の要点や役割を記入したワークシートを基に、4人グループで文章構成について考える活動を中心にし、その効果を考察することとした。

(1) 前時の授業

まず、生徒は、「要点・要約・要旨ばっちりシート」を使って、各段落ごとの要点に関わる中心の文を探し、なるべく短い言葉で要点を表し、ワークシートへ記入した(図1)。要点よりも役割で示した方が、内容を短く的確に表しやすい場合は、「説明的文章における段落役割シート」を参考に役割を記入してもよいことにした。この活動は、始めは個人で考え、その後4人グループで考えを持ち寄り、自分の考えを友達の考えと比較して、相違点や共通点を見付けていくという流れで行った。生徒は「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」「シカの落ち穂拾い」の学習で要点や役割の表し方について学んでいるため、全ての班が時間内にワークシートへ記入することができた。

結論	本論										序論	成	文				
⑰	⑯	⑮	⑭	⑬	⑫	⑪	⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	☆
筆者の考え	クニマスの甲冑の足込み	これからできること	問い(2)の理由	⑬をよりくわしく調べ、クニマスと分かった。	クニマスと西湖の黒いマス	届けられた西湖の黒いマス	問い(2)についての新たな展開	⑧の詳しい内容	問い(2)のきっかけ	⑥の結果	問い(1)に繋がる出来事	農業用水と玉川(酸性の水)	かつて田沢湖にいたクニマスの存在	問題提起 問い(1) 問い(2)	クニマスの紹介	話題提示	☆
																	☆

図1 ワークシートの記入例

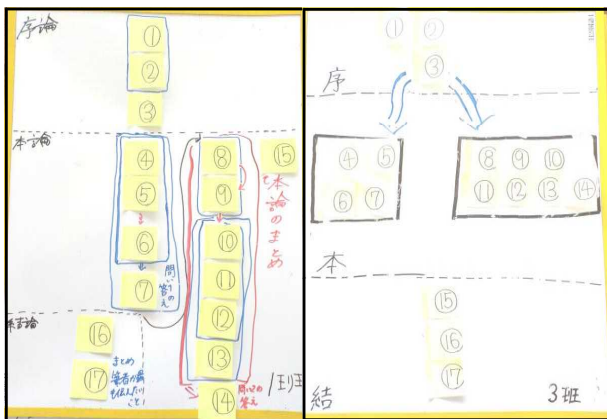
(2) 本時の授業

本時の課題「段落の要点からまとまりを考え、文章構成を捉えよう」を確認して、ホワイトボードとペンと17段落の番号が書かれている付箋紙を各グループに配り、文章構成について考えさせた(図2)。各グループは、まず、付箋紙をホワイトボードに貼り、序論・本論・結論の三つの場所を区切ってから、文章構成の考えを交流していた。前時のワークシートを考える視点にして意見を交流し、付箋紙を移動させながら、グループでの考えをまとめていった。

自分の意見の根拠が書かれたワークシートがあるので、グループ内での意見交流は活発に行うことができていた。形式段落の役割が根拠になったり、形式段落ごとの意味内容が根拠になったりと、これまで学習してきたことが文章の構成にどう関わっているかを考えながら、生徒たちは学習を進めることができた。



図2 文章構成について意見交流する様子



生徒の発言

生徒A：3段落は問題提起をしている段落だから、序論の所だね。

生徒B：問いの役割をしているから本論かな。
(中略)

生徒C：7段落が答えっていうのは書けたけど、意味のまとまりを考えると、どこが意味段落でまとまるのかな？

生徒D：5、6、7段落は、酸性のことを言ってるから一つのまとまりになると思うよ。

図3 グループごとの活動の様子

生徒A、Bの会話では、段落の役割を話題にし、生徒C、Dの会話では、形式段落の内容を話題にして、文章構成を捉えようとしていることが分かる(図3)。どのグループも「クニマスはなぜ田沢湖で絶滅したのだろう」「クニマスがなぜ遠く離れた西湖で生きていたのだろう」という二つの問いを捉え、それが他の形式段落とどのように関わっているかを考えていた。

文章構成について考えをまとめたホワイトボードを黒板に掲示し(図4)、自他のグループの文章構成を比較し、共通点や相違点について考えさせた。その際、納得できる意見交流ができるように、他のグループに考えを説明してもらいたいところがあれば、互いに質疑応答できる時間を設定した。

最後に、次回の授業は、文章構成図を基にして文章の要旨を200字にまとめることを伝えた。



生徒の発言

生徒E：1班に質問です。構成について説明してください。

生徒F：3段落に二つの問いがあり、7段落と14段落がその問いの答えになっていたもので、4～7が一つのまとまりで8～14が一つのまとまりだと考えました。15段落は…(後略)。

生徒G：3班に質問です。3段落から二つの矢印が出ているのはなぜですか？

生徒H：3段落に二つの問いがあり、答えも二つになってまとまると思ったからです。まとまりを横に並べたのは、二つの問いとその答えの関係が同じように並べてあると思ったからです。

図4 全体での共有の様子

5 考察

ワークシートに段落の要点や役割を記入する活動で、生徒たちは「説明的文章における段落役割シート」や「要点・要約・要旨ばっちりシート」を活用しながら、教科書の文章を繰り返し読んだり、考えを交流したりして、読み取ることができた。段落の役割・要点について考えていくという読みの視点を与えることで、生徒たちは見通しを持ちながら、重要な言葉や接続詞、筆者の表現の工夫に着目し、主体的に読むことができたのだと思われる。

文章構成を考える活動では、各グループが文章構成についての考えを視覚的に明らかにしながら、意見交流することができた。ホワイトボードに表された構成はシンプルであったが、交流の様子から、これまで学習してきたことを生かして、深く考えられる活動になっていたことが分かる。

第4時の授業では、文章構成図に示した意味段落の中から重要だと思われる段落の一つ抜き出し、要旨をまとめていく活動を行った。その中で、ほとんどのグループが要旨をまとめるのに必要な段落を選び出すことができていた。今回の実践が、要旨を捉えるのに有効な実践の一つであると考え、これからも付箋紙の活用やワークシートの工夫などを行い、継続して実践に取り組んでいきたい。

説明的な文章における段落の役割シート

名前 ()

説明的な文章は、段落の役割を意識して書かれている。段落の役割を考えながら読むと、各段落や文章全体の内容が読み取りやすくなる。

三つのまとめり	三つのまとめりの意味	段落の役割（文章に応じて様々な書き方がある。工夫してみよう。）
序論 (はじめ)	その文章で、何を扱うか（テーマ）、なぜそのテーマを取り上げたか、今までそのテーマについてどのようなことが考えられてきたか、また、この後どのようなことが述べられるか、など、読む人がその文章に入っていくやすくする役割をする。	○話題提示 ○導入 ○問題提起 等
本論 (なか)	その文章の色々な根拠（観察、実験、他の文献、その他）を提示し、それを組み合わせることで自分の考えていること、言いたいことを、論理的に組み立てていく。結論に導く根拠や説明の役割をする。	○問い1、問い2・・・ ○○○の答え、△△の答え ○○○の例、△△の例 ○○○の小まとめ（意味段落のまとめ） ○○○の補足 ○○○の理由 ※「〜」の「○○」というように書かれていると、文章のまとめりも分かる。
結論 (おわり)	本論で述べたことをまとめ、全体を通して主張したい考えをまとめて述べる役割をする。	○まとめ ○主張

※段落の役割を考える上で、形式段落のくくりでは、役割をうまく表現できない段落もある。その場合、意味段落（いくつかの形式段落で成り立つ。）を考え、その小見出しを考えてみよう。

要点・要約・要旨 ばっちりシート

名前 ()

1 要点：文章や話の中心となる大切な部分。
(形式段落ごとに考える。)

◇要点をとらえるには？

① 中心となる文を見つける。
↓ 中心となる文を見つけるには次のことに着目する。

(1) 段落の始めや終わり
(2) 接続語に続く内容

※「つまり」、「しかし」などの言葉のあとに、重要な内容が続くことが多い。

(3) 題名とつながりのある言葉
(4) 繰り返し出てくる言葉
(5) 文の主語と述語

2 要約：文章全体を短くまとめること。

- ① 各段落の要点（中心文）を見つける。
- ② 具体例は要約に入れない。
- ③ 段落冒頭の接続詞に注意して、接続の語を補ってつなげる。
- ④ 同じ説明が言い換えて出てくる場合は、短く簡潔にまとめた方を残す。

3 要旨：文章の中で筆者が最も伝えたいこと。